

## 2023年難民・強制移動・無国籍関連文献一覧

### 【図書】

- 大澤優真『生活保護と外国人 「準用措置」「本国主義」の歴史とその限界』明石書店
- 川久保文紀『国境産業複合体：アメリカと「国境の壁」をめぐるボーダースタディーズ』青土社
- 岸見太一＝高谷幸＝稲葉奈々子『入管を問う：現代日本における移民の収容と抵抗』人文書院
- 木下洋一『入管ブラックボックス』合同出版
- 小泉康一『「難民」とは誰か：本質的理解のための34の論点』明石書店
- 駒井洋監修＝加藤丈太郎編著『入管の解体と移民庁の創設：出入国在留管理から多文化共生への転換』明石書店
- 個人通報研究会編『国際人権個人通報150選』現代人文社（「I 自由権規約委員会：〈入管〉（56～65）、〈難民〉（66～82）」「II 拷問禁止委員会：〈難民〉（87～114）」「IV 女性差別撤廃委員会：〈難民〉（136）」「V 子どもの権利委員会：〈難民〉（139）」「IV 社会権規約委員会：〈入管〉（149）」）。
- 福田耕治編著『EU・欧州統合の新展開とSDGs』成文堂（鈴木規子「第4章 EUの難民支援とSDGs—シリア難民への高等教育支援—」67～94頁、大道寺隆也「EUによる難民排除の諸相—基本権保障をめぐる法と政治—」245～260頁）
- 望月葵『グローバル課題としての難民再定住：異国にわたったシリア難民の帰属と生存基盤から考える』ナカニシヤ出版
- 森恭子＝南野奈津子『いっしょに考える難民の支援：日本に暮らす「隣人」と出会う』明石書店
- 山本剛『難民問題の「恒久的解決策」を問い直す：人間の安全保障の実践』早稲田大学出版部
- 李英美『出入国管理の社会史：戦後日本の「境界」管理』明石書店

### 【論文】

- 阿部浩己「庇護の域外化—グローバル・ノースの抑止策—」『人権判例報』6号、3～18頁
- 網中昭世「モザンビーク難民の『帰還』再考—帰還者と残留者の選択—」『アフリカレポート』61巻、34～46頁
- 安藤由香里「札幌高裁令和4年5月20日判決：トルコ国籍クルド人難民認定の意義と難民関連訴訟の課題」『国際人権：国際人権法学会報』34号、72～76頁
- 飯笹佐代子「マヌス島からの抵抗：収容されたクルド人難民ベルフーズ・ブーチャーニの創作活動とその影響」『青山総合文化政策学』14巻1号、1～28頁
- 上原良子「新たな民族移動の胎動か？：移民・難民問題とヨーロッパ・デモクラシーの動揺」『海外事情』71巻6号、89～100頁
- 浦山聖子「どのような状況にある個人が「難民」か：難民の定義をめぐる規範的考察」『成城法学』90号、51～79頁
- 遠藤理恵「ウクライナ避難民への支援の在り方—ドイツとスウェーデンにおける外国人に対する定住支援から学ぶ—」『多文化共生研究年報』20号、1～13頁
- 呉泰成「韓国の『多文化子ども』の教育を受ける権利に対する壁：非正規滞在者と難民申請者の子どもを中心に」『茨城キリスト教大学紀要 II.社会・自然科学』57号、141～156頁
- 大塚直「劇作家ホルヴァートと女性たち：戦間期における新しい女性像と政治難民をめぐる」『愛知県立芸術大学紀要』52号、49～69頁

- 岡本みどり＝高橋哲「難民の子どものメンタルヘルスに関する研究の現状：低・中所得国から高所得国への移住者を対象として」『お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要』24号、21～32頁
- 荻野晃「オルバーン政権下のハンガリー外交と危機管理（2010～2022）：欧州難民危機、新型コロナウイルス、ロシア・ウクライナ戦争」『法と政治』74巻3号、81（637）～105（661）頁
- 奥村恭平「マーケットデザインの最先端：難民再定住アルゴリズムの設計と実装」『経済セミナー』731号、114～117頁
- 小川玲子「アフガニスタン人の退避と定住化の課題：留学生と日本大使館職員から見た日本の受け入れについて」『異文化コミュニケーション』26号、1～22頁
- 小川玲子「暮らしの長期展望開けぬ『難民鎖国』：家族の健康・子どもの教育環境を重視して日本脱出も」『国際開発ジャーナル』800号、24～27頁
- 小坂田裕子「難民認定の域外効力と除外条項 難民認定の域外効力と除外条項の適用審査を前提とした犯罪人引渡のための拘禁—シクサイトフ判決—」『人権判例報』6号、102～108頁
- 小田川綾音「『改正』入管法が成立、露呈した難民認定制度の構造的な課題」『法学セミナー』68巻8号、42～49頁
- 小野義典「EUの出入国管理法制とハンガリー—シリア等からの『難民』への対応とその課題—」『城西現代政策研究』17巻1号、19～47頁
- 小畑郁「人類関心事項としての日本の『入国管理』法制」『法律時報』95巻9号、1～3頁
- 加賀美雅弘「エスニック集団に着目したヨーロッパの地域理解」『地理空間』16巻2号、1～12頁
- 梶村寛「難民、移民、国籍：イタリアの近況」『専修大学今村法律研究室報』77号、1～13頁
- 柏崎正憲「日本の『入国管理』体制：事実上の移民政策と制度化された人権侵害を問う」『季刊経済理論』60巻2号、6～20頁
- 可部州彦「SDGs 関連企業に採用された高資格難民の雇用とキャリアプランに対する態度・気持ち」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュラル』17巻1号、93～98頁
- 河合恭平「アーレントの難民論とモビリティ：国家の定住性とネーションの移動性の不一致」『メディア・コミュニケーション：慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』73号、79～87頁
- 川浦佐知子「連邦インディアン政策とアメリカ先住民の主権(1)：強制移動、マーシャル三大判決とインディアン通商法」『アカデミア』25号、63～76頁
- 川上愛「ロシア侵攻における抵抗するウクライナ市民の地位とその保護」『人道研究ジャーナル』12号、334～355頁
- 川口智恵「ウクライナ避難民対応にみる日本の人道主義：日本政府と社会の対応を中心に」『人道研究ジャーナル』12号、320～333頁
- 川村真理「日本におけるウクライナ避難民の受入れ」『杏林社会科学研究』38巻1・2号、1～34頁
- 北川眞也「社会の総寄せ場化」における労働移植のロジクス—外国人技能実習制度、移動の自律性、流動的下層労働者—」『季刊・経済理論』60巻2号、39～49頁
- 北村泰三「送還時の危険性評価義務 拷問等の絶対的禁止との関連で—J.K. 対スウェーデン判決—」『人権判例報』6号、21～27頁
- 北村泰三「トルコ国籍クルド人の難民該当性を認容した判決」『新判例解説 Watch』32号、315～318頁
- 桐原翠「ムスリム移民・難民から考える宗教的『戒律』：ハラールから生み出される新たな消費文化」『研究所報』33号、124～132頁
- 工藤晴子「庇護のポリティクスと性的マイノリティー—アメリカ・トランプ政権下のネオ・ルフールマン国境の庇護希望者—」『社会学評論』74巻3号、435～450頁
- 桑名恵「難民主導組織（Refuge-led Organization）がレジリエンス促進にもたらす可能性：ウガンダの事例から」『Journal of International Studies』8号、25～40頁

- 小宮理奈「難民研究における難民の主体性と参加を考える」『文化人類学研究』24巻、131～146頁
- 近藤敦「追放理由の根拠となる情報にアクセスする権利 第7議定書1条違反—ムハンマドおよびムハンマド判決—」『人権判例報』6号、75～81頁
- 齋藤翔太郎「20世紀初頭のイギリスにおける入国管理制度の特質と歴史的意義：1905年外国人法を中心として」『経済学論集』83巻4号、93～116頁
- 笹田栄司「裁判制度のパラダイムシフト：過去と未来をつなぐ憲法上の10のテーマ（10・完）行政裁判における『実効的権利救済』のインパクト：難民不認定処分を受けた不法滞在者の強制送還と裁判を受ける権利」『判例時報』2545号、5～18頁
- 佐藤俊輔「危機後のEU移民・難民政策：連帯とその困難」『国学院法学』61巻3号、160～141頁
- 佐藤雪野「チェコ・ウクライナ関係に関する一考察—ウクライナ戦争からの避難民に注目して—」『ヨーロッパ研究』17号、77～88頁
- 佐野康太＝冨田茂＝二見茜＝駒井知会＝上里彰仁「心的外傷に関連した腹痛を訴える難民（庇護申請者）の一例」『社会医学研究：日本社会医学会機関誌』40巻2号、241～245頁
- 申知瑛＝金友子「『難民の土地』から『土地のなかの難民』へ：『パレスチナとは何か』に見る非／人間存在と入植植民地主義批判」『思想』1196号、111～136頁
- 鈴木達也＝前山幸一「入管法等の一部改正—難民、収容、送還等—」『立法と調査』460号、35～48頁
- 鈴木慶孝「『移民／難民受け入れ国トルコ』に関する一考察『一時的保護』と『条件付き難民』を中心として」『三田社会学』28号、125～127頁
- 鈴木慶孝「トルコの社会統合研究の動向と今後の課題：難民問題、シティズンシップの観点から」『三田社会学』28号、87～90頁
- 大道寺隆也「EUのウクライナ避難民対応：人道主義とその陥穽」『青山法学論集』65巻1号、49～72頁
- 滝澤三郎「変わりゆく日本の難民政策：補完的保護の背景を探る」『多文化共生研究年報』20号、27～35頁
- 滝澤三郎＝大茂矢由佳「転機を迎えた日本の難民政策と日本人の難民意識の変遷」『政治社会論集』8号、1～21頁
- 武田珂代子＝稲垣浩「自治体のウクライナ避難民支援における音声翻訳システムの使用に関する考察」『通訳翻訳研究』23号、37～59頁
- 葛木文湖「難民の高等教育—補完的保護の優先課題として—」『創大平和研究』37号、7～39頁
- 寺田裕佳「ケニア北部カクマ地域における難民支援と参加型地域計画による地域開発」『都市地理学』18巻、87～103頁
- 戸田五郎「国境での庇護申請拒否とノン・ルフールマン 庇護審査なしでの送還と条約3条—M.K.対ポーランド判決—」『人権判例報』6号、52～59頁
- 伴野崇生「難民支援としての日本語教育—難民を対象とした日本語教育」『小出記念日本語教育学会論文集』31号、165～191頁
- 伴野崇生「難民を対象とした日本語教育実践者の自己形成・成長過程における自己内対話 Auto-TEM 分析結果を基にした『対話的自己』による考察」『東京医科歯科大学教養部研究紀要』2023巻53号、95～112頁
- ドマーニグ・ローランド「戦時下上海で活躍したユダヤ難民の映画人たち(2)ルーゼ&ヤコブ・フレックの『世界の子供たち(世界児女/KinderderWelt)』(1941年)について(前編)」『明治学院大学芸術学研究』33号、1～39頁
- 中村恵理＝保井俊之＝白坂成功「日本の民間企業の難民雇用動機及び職場融合のプロセスの特定」『国際開発研究』32巻2号、13～30頁

- 野村真理「イギリスにおけるユダヤ人難民の受け入れ：1933～1939年」『ユダヤ・イスラエル研究』37号、9～16頁
- 橋本直子「一時的保護と補完的保護—EUとアメリカの現状と日本の課題—」『多文化共生研究年報』20号、15～25頁
- 橋本直子「難民・避難民」『法学教室』509号、35～40頁
- 坂東雄介＝小坂田裕子＝安藤由香里「RAFIQ〈在日難民との共生ネットワーク〉に聞く—難民支援の実態に関するインタビュー調査—」『商学討究』74巻2・3号、137～170頁
- 人見泰弘「難民の社会学—日本の難民受け入れと今後の展開に向けて」岸政彦＝稲葉圭信＝丹野清人編『講座社会学(3)：宗教・エスニシティ』岩波書店、215～233頁
- 福嶋美佐子「日本のCOVID-19感染拡大期における移民・難民女性のスティグマと支援：ある Faith Based Organization の取り組みの質的調査研究」『実践政策学』9巻1号、123～133頁
- ベル裕紀「移住民の身体を統治する：文在寅政権下の移住民関連政策を中心に」『多民族社会における宗教と文化：共同研究』26号、29～50頁
- 前田直子「入管法改正と日本の難民認定制度の現在：国際人権法の視点から」『ジュリスト』1591号、72～77頁
- 望月葵「難民の帰属と社会的包摂：シリア難民危機以後の国際社会」『立命館アジア・日本研究学術年報』4号、102～106頁
- 百瀬圭吾「『地球市民』という理念の形成：インドシナ難民支援に取組んだ日本のNGO創設者たちの行動原理を事例に」『ボランティア学研究』23号、83～95頁
- 山下梓「性的指向を理由とした庇護申請者の送還 迫害の危険性に関する評価—BおよびC対スイス判決—」『人権判例報』6号、89～95頁
- 山本響子「ドイツにおける外国人の公的扶助給付の差異に対する憲法的統制の意義と限界—内外人平等と無保護のあいだ」『早稲田法学』98巻3号、121～161頁
- 山本達也「恐怖を分かち合う—焼身自殺者を目撃したあるチベット難民の身振りから」『中央評論』74巻4号、68～75頁
- 伊銀基「難民地位の脱北者—難民認定の解釈を中心に—」『創価大学大学院紀要』44集、35～57頁
- 李英美「戦後日本の出入国管理と『境界』」『日本史研究』734号、36～51頁

### 【難民・強制移動研究に関する特集等】

- アフリカにおける難民保護「帰還」（『アフリカレポート』61巻）
- ・杉木明子「特集にあたって—『帰還』をめぐる神話と実態を再考する—」
  - ・飛内悠子「第2次スーダン内戦後における南スーダン人のウガンダからの『帰還』について—クク人を事例に—」
  - ・網中昭世「モザンビーク難民の『帰還』再考—帰還者と残留者の選択—」
  - ・村尾のみこ「アンゴラ東部農村における難民の帰還と伝統的首長の復権—土地の分配に注目して—」
  - ・杉木明子「アフリカにおける難民の帰還と国際難民レジームの変容—ソマリア難民の帰還から—」
- 多元化する「難民」と日本の政策課題（『移民政策研究』15号）
- ・橋本直子「特集の趣旨」
  - ・小川玲子「アフガニスタン人の退避と人種化された国境管理」
  - ・安藤由香里「難民政策の転換を求めて—司法判断と難民政策」
  - ・梶村美紀「ビルマ難民の日本定住過程—祖国のクーデターと『再移住』」
  - ・南野奈津子「難民の社会統合をめぐる福祉的課題と求められるソーシャルワーク実践」
- 入管法「改正」案をめぐる諸問題（『法と民主主義』579号：一部抜粋）

- ・阿部浩己「入管法改定という暴戻／変容する国際法」
- ・渡邊彰悟「『補完的保護』制度の導入は保護の拡大か？」
- ・安藤由香里「送還停止校の例外・送還忌避罪とノン・ルフルマン原則」
- ・新島彩子「入管法改定案の課題—難民支援団体の立場から」

保健・医療・健康の視座から考える難民支援—共感と連帯をめざして—（『保険の科学』65巻1号：一部抜粋）

- ・中村安秀「難民・避難民に対する保健医療」
- ・稲葉基高「ウクライナから避難した人々に対する医療支援」
- ・五十嵐ゆかり「日本国内難民のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルツ／ライツへの支援」
- ・乾美紀「ラオス定住難民—見えない難民の見えない問題を可視化することの必要性—」